

はじめに

岩手大学大学院連合農学研究科（岩手連大、UGAS）は、我が国の北部に位置する4大学（帯広畜産大学、弘前大学、岩手大学、山形大学）がそれぞれの特色を活かした教育と研究体制を整えることにより、農学に関する研究と講義等を通じて、高度な専門的能力と豊かな学識を備えた研究者・技術者を養成する博士課程の大学院です。

この冊子は、指導教員用に教育課程について解説した手引き書です。の教育課程について理解を深めていただくとともに、適切な学生の科目履修指導、研究指導をお願いします。

この冊子では首指導教員が成績評価を行う科目に限って説明しています。その他の講義の詳細は学生に配布しているシラバスでご確認下さい。

また、26年10月新設のデュアルディグリープログラムの教育課程表も参考までに掲載しました。

25年度からの変更点

学位論文研究の進捗状況を確認することを目的とした「学位論文研究進捗状況報告会」を開催することが必須となります。この進捗状況報告会に向けての助言・指導をもって専攻別特別演習とすることができますので、14ページの「学位論文進捗状況報告会」に関する申し合わせ及び12ページの特別演習の説明をよく読んでください。

また、主指導教員が成績評価を行う、特別演習・特別研究・研究インターンシップ・国際学会コミュニケーション・社会人特別演習・教育研究指導の成績報告書様式を岩手連大ホームページの教員向けページに掲載しました。学生からレポートの提出に基づいて、随時成績評価を行い、事務室へ報告してください。

様式ダウンロードページ

http://ugas.agr.iwate-u.ac.jp/jp/staff_download.html

※進捗状況報告会実施報告書等についてもこちらからダウンロードできます。

平成27年度講義日程

Academic Calendar 2015

2015. 4. 1現在

平成 27 年(2015 年)	
前 期	
4 月 8 日(Wed)	研究者倫理(日本語)
4 月 22 日(Wed)	研究者倫理(英語)
5 月 13 日(Wed)	科学英語
6 月 17 日(Wed)~19 日(Fri)	農学特別講義Ⅱ(日本語)
7 月 1 日(Wed)~2 日(Thu)	科学英語(弘前) 一集中講義 Day1/Day2
7 月 8 日(Wed)~9 日(Thu)	科学英語(帯広) 一集中講義 Day1/Day2
7 月 15 日(Wed)~16 日(Thu)	科学英語(山形) 一集中講義 Day1/Day2
7 月 21 日(Tue)~22 日(Wed)	生物生産科学特論(日本語)
7 月 23 日(Thu)~24 日(Fri)	生物資源科学特論(日本語)
7 月 29 日(Wed)~30 日(Thu)	科学英語(岩手) 一集中講義 Day1/Day2
8 月 5 日(Wed)	科学英語(帯広) 一集中講義 Day3
8 月 6 日(Thu)~8 日(Sat) 2泊3日	科学コミュニケーション(帯広)
8 月 19 日(Wed)	科学英語(弘前) 一集中講義 Day3
8 月 20 日(Thu)	科学英語(岩手) 一集中講義 Day3
8 月 26 日(Wed)	科学英語(山形) 一集中講義 Day3
9 月 2 日(Wed)	科学英語
後 期	
10 月 1 日(Wed)	研究者倫理(日本語)
	研究者倫理(英語)
10 月 7 日(Wed)	科学英語
11 月 4 日(Wed)~5 日(Thu)	科学英語(帯広) 一集中講義 Day1/Day2
11 月 11 日(Wed)~12 日(Thu)	科学英語(弘前) 一集中講義 Day1/Day2
11 月 18 日(Wed)~20 日(Fri)	農学特別講義Ⅰ(英語)
11 月 25 日(Wed)~26 日(Thu)	科学英語(山形) 一集中講義 Day1/Day2
12 月 2 日(Wed)December 2	科学英語(帯広) 一集中講義 Day3
12 月 9 日(Wed)~10 日(Thu)	科学英語(岩手) 一集中講義 Day1/Day2
12 月 14 日(Mon)~15 日(Tue)	生物環境科学特論(英語)
平成 28 年(2016 年)	
1 月 13 日(Wed) January 13	科学英語(弘前) 一集中講義 Day3
1 月 20 日(Wed) January 20	科学英語(山形) 一集中講義 Day3
1 月 27 日(Wed) January 27	科学英語(岩手) 一集中講義 Day3
2 月 3 日(Wed) February 3	科学英語

【講義日程別途通知科目】

・実践統計学(日本語・英語):ともに11月頃実施予定

目 次

岩手大学大学院連合農学研究科の人材養成目的並びに 学生に修得させる知識・能力.....	1
岩手大学大学院連合農学研究科博士学位論文審査基準.....	2
指導教員の主な業務.....	3
学生の履修申告の指導について.....	5
科目の履修例.....	6
教育課程表.....	8
講義概要<必修科目>.....	11
○特別演習.....	12
「学位論文進捗状況報告会」に関する申し合わせ.....	14
○特別研究.....	16
講義概要<選択科目>.....	19
○研究インターンシップ.....	20
○研究インターンシップ実施先別の流れ.....	22
○国際学会コミュニケーション.....	26
○社会人特別演習<社会人カリキュラムのみ>.....	29
○教育研究指導<一般カリキュラムのみ>.....	32
研究科長からの学生交通費等の支援について.....	34
岩手連大の成績評価ガイドライン.....	35
学位申請・審査フローチャート.....	36

岩手大学大学院連合農学研究科の人材養成目的 並びに学生に修得させる知識・能力

岩手連大では、以下のように人材養成目的と学生に修得させる知識・能力を定め、これに沿った教育カリキュラムを用意しています。科目の履修にあたっては、これらを念頭に科目を選択してください。

連合農学研究科

連合農学研究科は、構成大学と連携大学院、他連合農学研究科、海外の大学との協力による層の厚い教育体制により、寒冷圏農学分野における高度な専門知識を修得させることにより、国際水準を目指す先端的な研究を展開できる研究者、農学分野に高い関心と豊かな知識を持った大学教員や、柔軟な課題探究能力を備えた高度専門職業人を養成することを目的とする。

生物生産科学専攻

生物生産科学専攻は、農業生物および有用な生物資源の生産技術の開発およびその生理・生態や遺伝子資源に関する基礎と応用研究のなかで、生物生産環境の制御に関する知識や能力を修得させることにより、高度な課題と技術を探求し、展開できる能力を備えた人材を養成することを目的とする。

生物資源科学専攻

生物資源科学専攻は、有用生物資源や農業生物の機能や遺伝子および生産環境の制御に関する基礎、ならびにその生物機能の利用や生産技術の開発についての知識や能力を修得させることにより、バイオサイエンス分野の専門家として問題解決型の卓越した研究能力と幅広い見識を備えた人材を養成することを目的とする。

寒冷圏生命システム学専攻

寒冷圏生命システム学専攻は、寒冷圏に生息する生物を広く研究対象に、温度（熱）環境に対する生命システムの応答機構に関する生物学と工学を横断した先駆的および融合的分野に関する知識や能力を修得させることにより、独創的で高度な学際的研究を展開できる人材を養成することを目的とする。

生物環境科学専攻

生物環境科学専攻は、生物資源の持続的な利用に関する環境要因の解明や地域資源の利活用に関する知識や能力を修得させることにより、地域社会の高度なニーズに対応できる専門技術者や地域リーダーとなりうる高度で知的な素養のある人材を養成することを目的とする。

岩手大学大学院連合農学研究科博士学位論文審査基準

平成25年11月29日岩手大学大学院連合農学研究科代議員会了承

(審査体制)

学位論文の審査は、正1名及び副3名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文で扱う問題設定が、農学関連分野の研究蓄積を踏まえて明確に示され、新規性、独創性を持つ学術論文としての意義が認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、正確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 学位論文の基礎となる主論文の公表

岩手大学大学院連合農学研究科の「学位論文審査等に関する細則」に定められた「学位論文の基礎となる学会誌等に発表された学術論文（主論文）」1編以上の内容が、提出された論文の中に含まれているか。

4. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、実験や調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。とくに研究倫理面や研究遂行上の安全性に配慮した研究方法が採られているか。

5. 論証方法や結論の妥当性

問題設定から結論にいたる論旨は、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。

6. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。文献等の引用や図表の提示等論文としての体裁が整っているか。

(評価基準)

上記1～6の評価項目すべてを満たすものを学位論文として認める。

指導教員の主な業務

【主指導教員】

1年次

- 入学オリエンテーションの出席（入学時）
- 履修計画書作成時のアドバイス（入学1ヶ月以内）
- 講義「特別演習」進捗状況報告会の開催（1年次・2年次に開催）
 - ・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後は進捗状況報告会実施報告書を提出

以下は学生が受講を希望する学年に随時

- 講義「研究インターンシップ」計画書の作成と提出 →成績報告書も一緒に提出
- 講義「国際学会コミュニケーション」実施報告書の作成と提出 →成績報告書も一緒に提出
- 講義「研究インターンシップ」と「国際学会コミュニケーション」に係る旅費の立替（運営被交付金で）
- 講義「教育研究指導」の実施計画と指導・成績評価
- 講義「社会人特別演習」の指導と成績評価



2年次

- 講義「特別演習」進捗状況報告会の開催及び特別演習成績評価
 - ・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後は進捗状況報告会実施報告書と成績報告書を提出



3年次

- 中間発表会の開催（学位申請の9ヶ月～3ヶ月前まで）
 - ・指導教員以外の出席をできるだけ求めること
- 学位申請の指導・実施
- 公開審査会の開催
 - 終了後「特別研究」の成績評価

その他3年間を通しての業務

- 学生への諸連絡の徹底（奨学金・授業料免除・RA・長期履修制度等）
- 教員会議への出席（例年4～5月開催）
- 教授会への出席（9月と2月開催）

【副指導教員】

1年次

○講義「特別演習」進捗状況報告会への出席（1年次・2年次に開催）

・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後、主指導教員に所見を伝える。

※なお、第二副指導教員には、この指導に必要な旅費（1泊2日程度）が支給される。この旅費は学生を呼ぶための出張に使用することも可。

そのほか、特別演習の指導として、指導教員の判断で

- ・学生のもとに出向いての指導
- ・学生を呼ぶ
- ・関係学会で学生を呼ぶ
- ・TV会議（Skype等）、メールなどによる指導・助言を行う



2年次

○講義「特別演習」進捗状況報告会への出席（1年次・2年次に開催）

・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後、主指導教員に所見を伝える。

※なお、第二副指導教員には、この指導に必要な旅費（1泊2日程度）が支給される。この旅費は学生を呼ぶための出張に使用することも可。

そのほか、特別演習の指導として、指導教員の判断で

- ・学生のもとに出向いての指導
- ・学生を呼ぶ
- ・関係学会で学生を呼ぶ
- ・TV会議（Skype等）、メールなどによる指導・助言を行う



3年次

○公開審査会への出席

学生の履修申告の指導について

岩手連大では、学部や修士課程と同様に学生は入学当初に履修申告手続きを行う必要があります。学部や修士課程と異なり、連大学生の履修申告は所定の履修計画届に記入して連大事務室まで提出してもらうこととしています。開講科目の中には、教育研究指導や研究インターンシップのように、主指導教員が指導学生に履修させるべきか判断すべきものが含まれていますので、主指導教員は履修申告の内容について必ずチェックをお願いします。

主指導教員は、学生から履修計画届を受け取り、履修科目のチェックを行い、裏面の「副指導教員の研究指導計画について」に記入、主指導教員署名欄に署名（PC 入力でも可）し、入学した月の末日までに各構成大学の連大担当者まで届けてください。

履修計画届の学生からの受け取り方法は、学生からペーパーで受け取る場合や学生が連大ホームページから履修計画届の様式をダウンロードし必要事項を記入して主指導教員にファイルを転送し、主指導教員がこれに必要な修正と署名などを加えて履修計画届を完成し、連大担当者宛に直接メール（添付ファイル）で提出していただく方法があります。

学生が履修申告しなかった科目でも、講義に出席しレポートなどの課題を確実に提出していることが確認できる場合は単位認定の対象にします。講義内容が未定等のため学生が選択科目で迷っている場合は、とりあえず選択4単位を満了した状態で履修申告させ、様子をみて追加履修できることを伝えてください。

表面

別紙様式第2号

履修計画届/Course Registration

入学年度 _____ 年 月 入学 学籍番号 _____
 専攻 _____ 専攻 連合講座名 _____ 連合講座 _____ 大学
 学生氏名 _____ 配属大学 _____
 研究題目 _____

以下のとおり、選択科目の履修を申告します。I register for the elective courses listed below.

科目区分 Specialty-specific	一般 Traditional student	社会人 working student	科目名 Course	年次 Year	単位数 Credits	履修予定年次 Year at UGAS (1st, second or third year at UGAS)	
必修 Compulsory	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	科学コミュニケーション Communication for Science Camp	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	研究者倫理 Ethics and Research	0	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	専攻必修 Advanced Course in XX	1	1~2	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	専攻研究 Advanced Research in XX	6	1~3	年次	
選択 (1)12単位以上を履修 (2)12単位未満を履修 (3)12単位未満を履修 (4)12単位未満を履修 (5)12単位未満を履修 (6)12単位未満を履修 (7)12単位未満を履修 (8)12単位未満を履修 (9)12単位未満を履修 (10)12単位未満を履修 (11)12単位未満を履修 (12)12単位未満を履修 (13)12単位未満を履修 (14)12単位未満を履修	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農学特別講義Ⅰ(英語) Special Lectures in Agricultural Science I (in English)	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	農学特別講義Ⅱ(日本語) Special Lectures in Agricultural Science II (in Japanese)	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	生物生産科学特論 Advanced Seminars in Bioproduction	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	生物資源科学特論 Advanced Seminars in Bioresources	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	生物環境科学特論 Advanced Seminars in Biotic Environment	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	科学英語 Science Communication in English A	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	英検特科(日本語)(英語) Applied Statistics (in Japanese) - (in English)	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	研究インターンシップ Research Internship	2	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	国際学会コミュニケーション Communication for International Conferences	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	社会人特別履修 Advanced Seminars for Continuing Education	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	教育研究指導 Education and Research Guidance in XX	1	1	年次	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	専攻共通 Specialty				

単位数 No. of credits: 必修 compulsory 8 単位 credits 選択 Elective () 単位 credits 合計 Total () 単位 credits

注1) 履修する科目に○を付け、履修予定年次を記入してください。修了に必要な単位数は、必修8単位、選択4単位以上、合計12単位以上です。
 注2) 連合大学の授業科目(博士課程および修士後期課程)を履修する場合は合計2単位の範囲で、上述空欄に科目名、科目区分(博士課程科目など)、単位数、履修予定年次を記入してください。また、履修する前3学期指定の月組によって申請してください。

Note 1: Indicate a circle in the box for the course you are planning to take and indicate the year at UGAS (1st, 2nd or 3rd) at which you are planning to take that course. You need a total of at least 12 credits (minimum of 8 credits from compulsory courses and 4 credits from elective courses) to acquire a degree.
 Note 2: When taking courses from the Graduate School of Engineering or master programs, use the blank rows above to fill in the name of the course, type (course for master program, etc.), number of credits, and the year at UGAS at which you are planning to take the course (limited to up to 2 credits).

※主指導教員の先生方へ
 裏面の「副指導教員の研究指導計画について」に記入の上、下記に署名をお願いします。

主指導教員署名 _____

裏面

副指導教員の研究指導計画について

1. 第一副指導教員名 _____ 所属大学名 _____ 年間履修予定時間 _____ 時数
 研究指導の概要 _____

2. 第二副指導教員名 _____ 所属大学名 _____ 年間履修予定時間 _____ 時数
 研究指導の概要 _____

3. 補助教員名 _____ 所属大学名 _____ 年間履修予定時間 _____ 時数
 研究指導の概要 _____

※ 年間履修予定時間には、特別講習・特別研究とそれ以外の日常例に行う研究指導を含めた時間数を記入してください。第一副指導教員は年費を満了して2単位(20時間)、補助教員は4単位(60時間)程度以上を指導することにより、報告の副指導教員の実験対象者となります。

主指導教員が、
第一・第二副指導教員
と相談の上、記入する。

主指導教員が署名する。

科目の履修例（一般カリキュラム）

連合農学研究科（博士課程）では、学位授与とともに与えられる専攻別特別研究（6単位）を除いて教育課程表に示した科目を6単位以上（必修2単位、選択4単位以上）修得することが修了要件になっています。選択科目の履修は自由な組み合わせが可能です。以下にいくつか履修例を示します。

必修科目

以下の科目は全員が必ず履修する必要があります。

研究科共通科目	科学コミュニケーション	1単位
研究科共通科目	研究者倫理	0単位
専攻共通科目	〇〇学特別演習	1単位
専攻共通科目	〇〇学特別研究	6単位（学位授与の決定とともに付与）
	計	8単位

選択科目（4単位以上）

1. 幅広い専門分野に触れ研究の視野を広めたい学生

農学特別講義Ⅱ（日本語）	1単位
生物生産科学特論	1単位
生物資源科学特論	1単位
生物環境科学特論	1単位など

2. 国際性を養うため科学英語の能力を身につけたい学生

農学特別講義Ⅰ（英語）	1単位
科学英語	1単位
所属専攻の〇〇学特論	1単位
国際学会コミュニケーション	1単位など

3. 寒冷圏生命システム学専攻の学生

農学特別講義Ⅰ（英語）	1単位
生物資源科学特論	1単位
研究インターンシップ	2単位
国際学会コミュニケーション	1単位など

*寒冷圏生命システム学専攻の教員は生物資源科学特論の講義の一部を担当します。

4. 外国人留学生

農学特別講義Ⅰ（英語）	1単位
科学英語	1単位
研究インターンシップ	2単位
国際学会コミュニケーション	1単位など

科目の履修例（社会人カリキュラム）

社会人学生も、一般学生と同様に学位授与とともに与えられる専攻別特別研究（6単位）を除いて教育課程表に示した科目を6単位以上（必修2単位、選択4単位以上）修得することが修了要件になっています。連大の講義は、社会人学生が履修しやすいように、ほぼすべての講義を集中形式で開講します。また、特別演習、特別研究についても、大学院設置基準第14条特例による時間外の指導が受けられるように配慮します。その際、主指導教員は事前に学生と研究計画、スケジュール等を打ち合わせてください。

また、職場の勤務条件により、3年間での修了が困難な場合は長期履修制度を活用し、3年分の授業料で最大5年間の履修計画を立て課程を修了することができます。

必修科目

以下の科目は全員が必ず履修する必要があります。

研究科共通科目	科学コミュニケーション	1単位
研究科共通科目	研究者倫理	0単位
専攻共通科目	〇〇学特別演習	1単位
専攻共通科目	〇〇学特別研究	6単位（学位授与の決定とともに付与）
	計	8単位

選択科目（4単位以上）

1. 国・地方・民間の研究者

農学特別講義Ⅱ（日本語）	1単位
所属専攻、他専攻の〇〇学特論	2単位
社会人特別演習	1単位など

2. 大学等教職員

農学特別講義Ⅰ（英語）	1単位
農学特別講義Ⅱ（日本語）	1単位
科学英語	1単位
実践統計学	1単位など

3. その他、行政職、農業者、コンサルタント等

農学特別講義Ⅱ（日本語）	1単位
生物生産科学特論	1単位
生物資源科学特論	1単位
生物環境科学特論	1単位など

上記以外に、時間的に条件がある場合は、配属大学の修士課程で開講している専門性の高い講義科目を2単位まで履修することができます。

このほか、履修にあたっては一般カリキュラムの履修例も参考にしてください。

岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表 （一般カリキュラム）

（2015年4月現在）

	専攻	科目名	単位数	講義方式	必修 選択 別	担当教員	履修予定年次			
							1 年 次	2 年 次	3 年 次	
必修 (一)から8単位)	研究科共通	科学コミュニケーション	1	合宿	●	資格教員等	◎			
		研究者倫理	0	遠隔	●	資格教員等	◎			
	生物生産科学	生物生産科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎		
		生物生産科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎	
	生物資源科学	生物資源科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎		
		生物資源科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎	
	寒冷圏生命 システム学	寒冷圏生命システム学 特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎		
		寒冷圏生命システム学 特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎	
	生物環境科学	生物環境科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎		
		生物環境科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎	
	選択科目 (二)から4単以上を選択)	研究科 共通	農学特別講義Ⅰ（英語）	1	遠隔	◎	全国の連合農学研究科教員	◎		
			農学特別講義Ⅱ（日本語）	1	遠隔	◎	全国の連合農学研究科教員	◎		
生物生産科学特論			1	遠隔	○	各専攻資格教員	◎			
生物資源科学特論			1	遠隔	○	各専攻資格教員	◎			
生物環境科学特論			1	遠隔	○	各専攻資格教員	◎			
科学英語			1	遠隔	◎	外国人教員	◎			
実践統計学（英語）・（日本語）			1	遠隔	○	資格教員・外部講師	◎			
研究インターンシップ			2	訪問	◎	研究機関等の研究員	◎			
国際学会コミュニケーション			1	訪問	◎	主指導教員		◎		
生物生産科学		生物生産科学教育研究指導	1	教室	◎	主指導教員	◎			
生物資源科学		生物資源科学教育研究指導	1	教室	◎	主指導教員	◎			
寒冷圏生命 システム学		寒冷圏生命システム学 教育研究指導	1	教室	◎	主指導教員	◎			
生物環境科学		生物環境科学教育研究指導	1	教室	◎	主指導教員	◎			

注1) 遠隔：多地点制御遠隔講義システムによる講義・演習。 訪問：研修先、国際学会開催地等への訪問。

対面：教員によるマンツーマン指導。合宿：合宿形式の講義・演習。教室：教室での授業。

注2) 受講予定年次は目安を示したもので、指導教員と相談した上で適宜変更できます。

注3) 他の研究科（博士課程および博士後期課程）の科目での代替可能単位数は2単位。

注4) ●：必修科目、◎：履修を強く勧める選択科目、○：選択科目

**岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表
（社会人カリキュラム）**

（2015年4月現在）

	専攻	科目名	単位数	講義方式	必修 選択 別	担当教員	履修予定年次		
							1 年 次	2 年 次	3 年 次
必修 (ここから8単位)	研究科共通	科学コミュニケーション	1	合宿	●	資格教員等	◎		
		研究者倫理	0	遠隔	●	資格教員等	◎		
	生物生産科学	生物生産科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物生産科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	生物資源科学	生物資源科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物資源科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	寒冷圏生命システム学	寒冷圏生命システム学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		寒冷圏生命システム学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	生物環境科学	生物環境科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物環境科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
選択科目 (ここから4単以上を選択)	研究科 共通	農学特別講義Ⅰ（英語）	1	遠隔	○	全国の連合農学研究科教員	◎		
		農学特別講義Ⅱ（日本語）	1	遠隔	◎	全国の連合農学研究科教員	◎		
		生物生産科学特論	1	遠隔	◎	各専攻資格教員	◎		
		生物資源科学特論	1	遠隔	◎	各専攻資格教員	◎		
		生物環境科学特論	1	遠隔	◎	各専攻資格教員	◎		
		科学英語	1	対面	◎	外国人教員	◎		
		実践統計学（英語）・（日本語）	1	遠隔	◎	資格教員・外部講師	◎		
		研究インターンシップ	2	訪問	○	研究機関等の研究員	◎		
		国際学会コミュニケーション	1	訪問	○	主指導教員	◎	◎	
		社会人特別演習	1	職場	◎	主指導教員	◎	◎	

注1) 遠隔：多地点制御遠隔講義システムによる講義・演習。 訪問：研修先、国際学会開催地等への訪問。

対面：教員によるマンツーマン指導。合宿：合宿形式の講義・演習。教室：教室での授業。

注2) 受講予定年次は目安を示したもので、指導教員と相談した上で適宜変更できます。

注3) 他の研究科（博士課程および博士後期課程）の科目での代替可能単位数は2単位。

注4) ●：必修科目、◎：履修を強く勧める選択科目、○：選択科目

岩手大学大学院連合農学研究科(博士課程)教育課程表
(デュアルディグリープログラムカリキュラム)

(2015年4月現在)

	大学	専攻	科目名	単位数
必修 (ここから8単位)	岩手大学連合農学研究科	研究科共通	科学コミュニケーション	1
			研究者倫理(英語・日本語)	0
		生物生産科学	生物生産科学特別演習	1
			生物生産科学特別研究	6
		生物資源科学	生物資源科学特別演習	1
			生物資源科学特別研究	6
		寒冷圏生命システム学	寒冷圏生命システム学特別演習	1
			寒冷圏生命システム学特別研究	6
		生物環境科学	生物環境科学特別演習	1
			生物環境科学特別研究	6
必修	サスカチュワン大学	Plant Science	PLSC 大学院セミナー	0
			PLSC 996.0 Ph.D. Thesis Course	0
			倫理学	0
			GSR 960.0	0
			GSR 961.0 if research involves human subjects	0
			GSR 962.0 if research involves animal subjects	0
			Online Safety Orientation Course 各種	0
選択 (サスカチュワン大学科目を含め、ここから5単位以上)	岩手大学連合農学研究科	研究科共通	農学特別講義Ⅰ(英語)	1
			農学特別講義Ⅱ(日本語)	1
			生物生産科学特論	1
			生物資源科学特論	1
			生物環境科学特論	1
			科学英語	1
			実践統計学(英語・日本語)	1
			研究インターンシップ	2
		国際学会コミュニケーション	1	
		生物生産科学	生物生産科学教育研究指導	1
		生物資源科学	生物資源科学教育研究指導	1
		寒冷圏生命システム学	寒冷圏生命システム学教育研究指導	1
	生物環境科学	生物環境科学教育研究指導	1	
	サスカチュワン大学 (ここから3単位以上)	Plant Science	PL SC 812.3 Physiological Plant Ecology	3
			PLSC 813.3 Statistical Methods in the Life Sciences	3
			PISC 814.3 Topics in the Physiology of Crop Plants (Physiology of Yield Formation)	3
			PL SC 815.3 Applied Plant Cytogenetics	3
			PLSC 816.3 Quantitative Genetics	3
			PLSC 823.3 Landscape Ecology and Vegetation Management	3
			PLSC825.3 Applied Plant Biotechnology	3
PLSC827.3 Molecular Basis of Grain Quality			3	
PLSC865.3 Plant Abiotic Stress	3			
PLSC881.3 Host-Pathogen Interactions and Breeding for Disease Resistance in Plants	3			
PLSC898.3 Ecology of Weeds and Invasive Plants	3			
PLSC898.3 Plant Genomes	3			

注1) 遠隔: 多地点制遠隔講義システムによる講義・演習。 訪問: 研修先、国際学会開催地等への訪問。

対面: 教員によるマンツーマン指導。 合宿: 合宿形式の講義・演習。 教室: 教室での授業。

注2) 受講予定年次は目安を示したもので、指導教員と相談した上で適宜変更できます。

注3) 他の研究科(博士課程および博士後期課程)の科目での代替可能単位数は2単位。

注4) ●: 必修科目、◎: 履修を強く勧める選択科目、○: 選択科目

講義概要
<必修科目>

専攻別特別演習

専攻共通科目	1 単位
講義概要 (内容) 主として履修者の第一副指導教員及び第二副指導教員が、それぞれの研究分野に基づいて履修者の論文研究課題に即した研究指導を行う内容です。主指導教員が指導内容を計画し、副指導教員が中心となり指導を行います。学生には毎年、進捗状況報告会で学位論文の進捗状況について発表を行ってもらい、指導教員陣からの助言を得ます。報告会での助言の他に、指導教員陣の判断で学会参加時等に指導を行う場合もあります。	
評価の方法 進捗状況報告会での発表内容及び指導の過程での状況を含め第一副指導教員と第二副指導教員の所見を元に主指導教員が総合的に評価します。	
講義履修上の注意事項 この科目は、特別研究と同様に指導教員が履修者の学位論文の作成を直接指導するものです。演習は、1年次および2年次の2年間でを行うことを標準としますが、指導教員と相談の上、2年間を超えて演習を行うことが可能です。(長期履修生等) 第二副指導教員からの指導は、教員が所属する大学に出かけて講義や研究指導を受ける場合があります。	

○指導教員への補足説明

専攻別特別演習の指導については、1・2年次の進捗状況報告会の開催及びその事前・事後指導をもって特別演習とします。報告会に加えて、これまでどおり学会等に参加した際に指導することも可能です。

提出書類と提出時期について

1年次

進捗状況報告会終了後、主指導教員は副指導教員からの所見を元に「学位論文進捗状況報告会実施報告書」(様式11)を作成し、岩手連大事務室に提出してください。
※長期履修生等で2年間を超えて演習を行う場合は、特別演習終了時期まで毎年、「進捗状況報告会実施報告書」を提出してください。

2年次(最終年次)

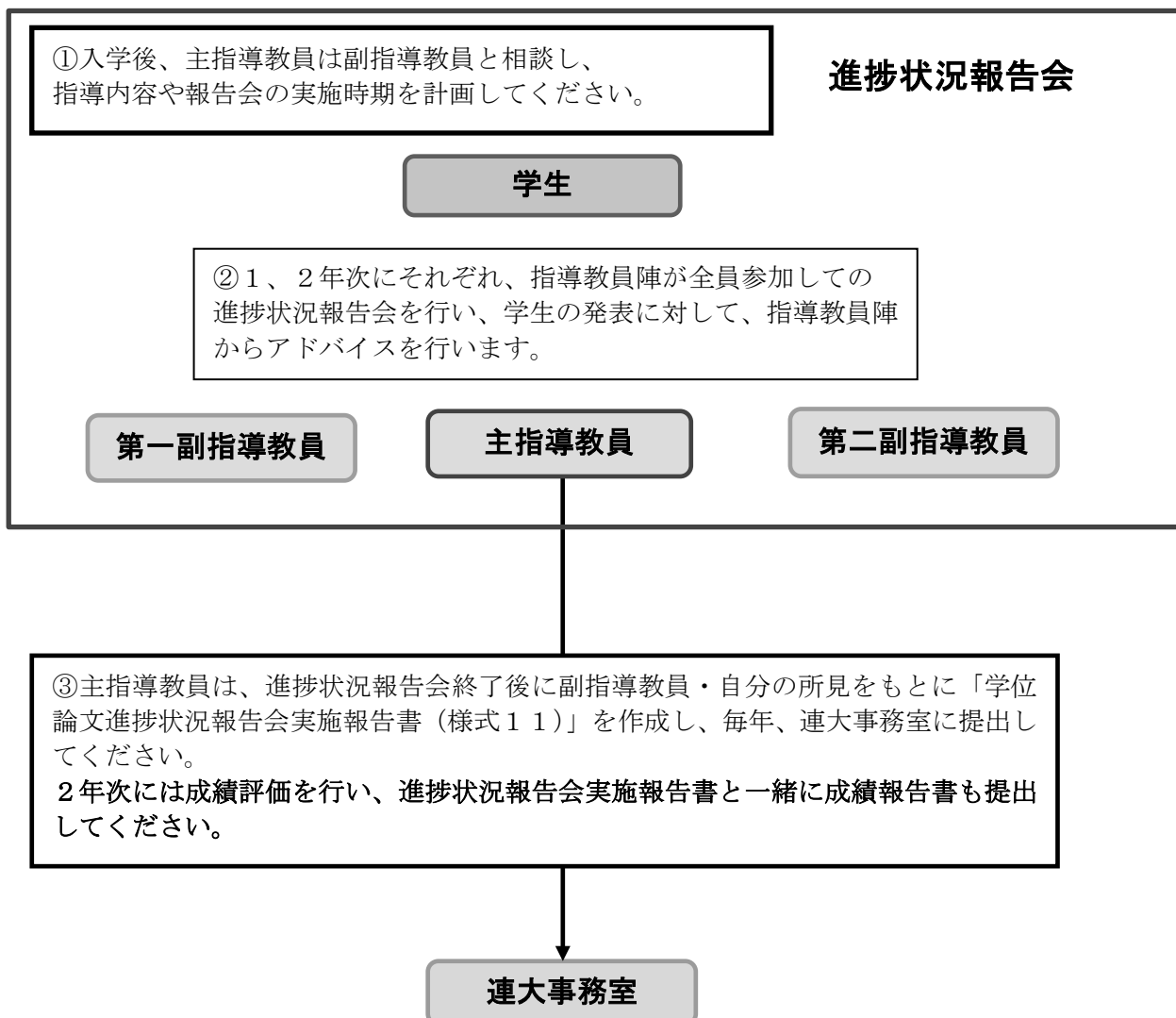
進捗状況報告会終了後、「学位論文進捗状況報告会実施報告書」と一緒に成績報告書を提出してください。成績報告書の提出をもって、特別演習の単位を認定します。
※「学位論文進捗状況報告会実施報告書」及び「成績報告書」の様式は、岩手連大 HP でダウンロードできます。

参考：

主指導教員及び第一副指導教員は俸給の調整額を適用する教員として、「研究指導及び論文指導を通じて2単位(1単位は15時間とする)相当以上を担当する者」(4大学間の確認事項、連大関係規則等15頁)とされていますので、それにふさわしい学生指導を特別演習、特別研究のなかで実施するようにしてください。副指導教員2名で15時間程度の指導を目安としてください。

第二副指導教員による研究指導は、今まで通り原則として教員が学生の配属大学へ出向いて行いますが、場合によっては第二副指導教員の旅費の範囲で学生を呼び寄せ指導することができます。

専攻別特別演習の流れ



※進捗状況報告会が終了次第、随時報告して
いただいて構いません。

連大事務室からは、参考に特別演習終了予
定時期である2年次末（4月入学者は2月、
10月入学者は8月）に主指導教員にメール
で連絡します。

「学位論文研究進捗状況報告会」に関する申し合わせ

(趣旨)

博士課程学生の学位論文研究の進捗状況を確認し修業年限以内で修了できるように、年1回(中間発表会実施年度を除く)、当該学生とその主指導教員および2名の副指導教員、計4名の参加により、学生に適切な助言・指導を行う場として、学位論文研究進捗状況報告会(以下、進捗状況報告会)を開催する。

1. 実施時期

進捗状況報告会は学生ごとに年1回開催することとし、開催月日は問わない。

2. 実施責任者

当該学生の主指導教員とする。

3. 実施場所

学生とその指導教員3名が参加し得る条件があれば、開催場所は問わない。また、多地点遠隔講義システムを利用して、それぞれの大学にいながら進捗状況報告会を開催してもよい。

4. 実施方法

進捗状況報告会は学生ごとに実施するものとするが、複数の学生とその指導教員が集まり合同で開催してもよい。

5. 実施内容

進捗状況報告会では、まず学生から学位論文研究の内容と進捗状況、今後の予定などについて報告させ、それに対して各指導教員から助言・指導を行う内容で実施する。時間数は特に定めないが、学位論文中間発表会と同程度の時間で行うことを目安とする。

6. 「専攻別特別演習」(必修、1単位)との関係

当該学生の入学1年次および2年次の進捗状況報告会で第1副指導教員および第2副指導教員が行った助言・指導の内容は、そのまま専攻別特別演習(必修、1単位)を実施したものとみなす。

7. 研究科長への報告

主指導教員は、実施期日が決定され次第、研究科長へそれを報告するとともに、終了後は速やかに学位論文研究進捗状況報告書(別紙)を提出する。

学位論文研究進捗状況報告会 実施報告書

年 月 日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

連合講座名 ()
主指導教員氏名 ()

下記のとおり学位論文研究進捗状況報告会を実施しましたので、報告します。

実施年月日(時間) : 平成 年 月 日 曜日
時 分 ~ 時 分

実施場所 : ()

参加者 : 発表学生 ()

指導教員 : () () ()

実施形態など特記事項 : ()

指導教員による所見 :

第 1 副指導教員による評価と指導内容 :

第 2 副指導教員による評価と指導内容 :

主指導教員による総括所見 :

注) 特別演習終了後の進捗状況報告会について

進捗状況報告会は特別演習の単位が認定された時点で終了ではありません。単位認定後、中間発表に至らない学生については、毎年、進捗状況報告会を行って進捗状況を確認し、報告書を提出してください。

特別研究

専攻共通科目	6 単位
講義概要 (内容) 主指導教員が、学生の学位論文の作成にあたり継続的に研究指導を行うものです。学生は主指導教員が立てた計画に従って研究を遂行します。その他の指導内容は、主指導教員の計画に基づいて行います。	
評価の方法 論文作成に当たっての取り組み状況、得られた研究成果、学位審査会での報告態度等を総合して評価します。	
講義履修上の注意事項 この科目は、学位論文作成指導の本体をなすものです。1年次から学位論文完成に至るまで、主指導教員と日常的に相談し、指導を受けるよう心がけてください。 学位取得までには、学位論文中間報告会を行い、学位論文公開審査会（最終試験）に合格する必要がありますが、この特別研究の単位は、最終試験に合格し博士の学位授与が決定した場合のみ付与されます（学位を取得しない場合は、特別研究の単位は認められません）。	

指導教員への補足説明

この科目は、学位論文作成指導の本体をなすもので、主指導教員が標準終了年限を通して研究指導の計画を立案し、当該学生を指導するものです。成績評価は、中間報告会での第一、第二副指導教員の意見も参考にしつつ、主指導教員が最終的な評価を行い、学位審査報告資料（最終審査結果の要旨、別紙様式第8号）に明記していただくと同時に成績報告書にて単位認定の結果をお知らせください。

特別研究ではレポート等の提出は必要ありません。（学位論文審査報告などがこれに相当するものとみなします）

成績報告について

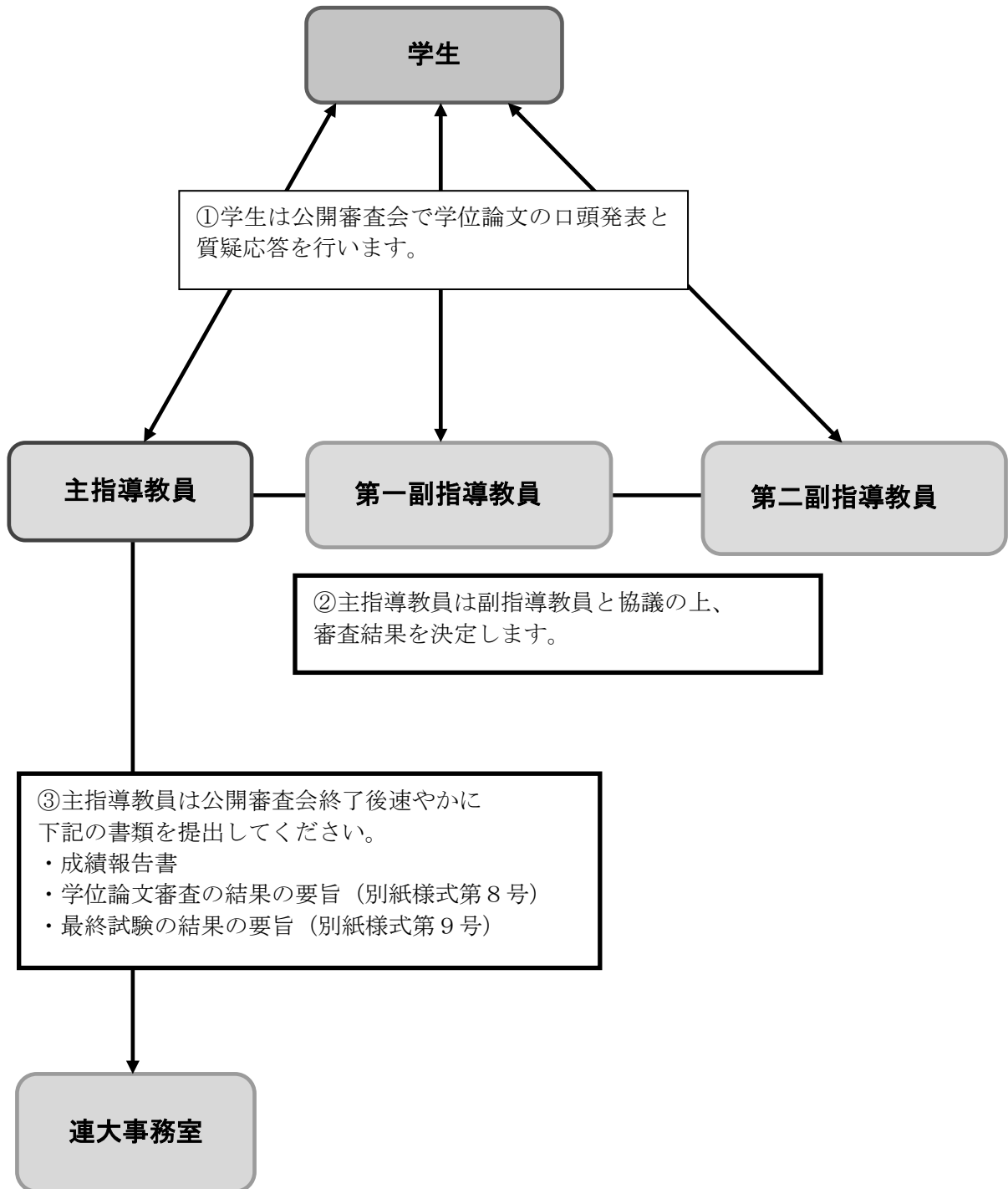
公開審査会に必要な書類と一緒に成績報告書をお送りしますので、審査会終了後、学位審査報告書類と一緒に提出ください。

なお、特別研究（6単位）は、研究科教授会で学位授与の決定後、単位が付与されます。研究科教授会で学位の授与が認められなかった場合は、特別研究の単位も認定されませんのでご注意ください。

補足) 特別演習と特別研究の区分け

特別演習と特別研究は、ともに当該学生の博士論文作成指導に直接結びつく科目であり、実際上、その区分けを厳密に行うことは困難な場合が多いことから、実施にあたっては主指導教員の柔軟な判断をお願いします。

専攻別特別研究単位認定の流れ



講義概要
<選択科目>

研究インターンシップ

研究科共通科目	2単位
講義概要 (内容) 研究の最先端の職場において、取り組んでいる研究テーマの説明を受け、研究の一部を分担しながら研究の視野を広げてもらいます。 実施場所は岩手連大と連携協定を結んでいる研究機関（東北農業研究センター、岩手生物工学研究センター、青森県産業技術センター、カナダ・サスカチュワン大学）をはじめ、主指導教員が申請し連大（代議員会）が認めた教育研究機関です。 インターンシップ期間終了後、研修先で体験した研究内容について大学でさらに最近の成果等の文献を読み、レポートを作成するとともに、研究インターンシップ報告会で報告、議論します。	
評価の方法 受講者の提出したレポート及び受入教員からの報告書を元に受講者の研究への取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容、成果発表会におけるプレゼンテーション能力を総合して評価を行います。	
講義履修上の注意事項 1. 研究インターンシップの実施要件 1) 学生の配属先(大学および連携機関)と同一の研究機関や他の大学・研究機関であっても第2副指導教員の所属する研究室(部署)では研修できません。また、岩手連大との連携機関以外で研究インターンシップを希望する場合は、 <u>受入先の下承を得た上で、国外の機関はインターンシップ実施希望日の6ヵ月前まで、国内の機関は3ヶ月前までに指導教員及び連大事務室に相談してください。</u> 2) 研修期間：国内、国外ともに、研究インターンシップの期間は2週間(土日を除く10日間)以上が必要です。ただし、サスカチュワン大学での研修は、受け入れの都合上3週間が標準となっています。 3) 研修の内容：研究インターンシップは、研究の一部を分担しながら研究の視野を広げてもらうことを目的にしていますので、研修先での学位論文研究の調査や実験は、研修の内容には含まれません。学生の研究に必要な実験や調査は、「特別研究」の内容の一部とみなされるため、研修先が行う研究に触れることで視野を広げることを中心に沿えた、研究インターンシップの実施にご留意ください。ただし、上記の研修目的が達成されているのであれば、副次的に学位論文研究に関わる調査や実験を研修先で行うことは差し支えありません。 *研究インターンシップを受講する際は学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険への加入を義務づけていますので、必ず加入してください。 *詳しいインターンシップの流れについては22～24ページをご覧ください。 *旅費の支給額・範囲については34ページをご覧ください	

指導教員への補足説明

研究インターンシップは実施場所によって手続きが異なります。次ページ以降の説明に従って手続きをしてください。

1) 連携協定を結んでいる研究機関以外で研究インターンシップを実施する場合

主指導教員が受入機関と連絡を取り、研究インターンシップ実施のすべての段取りを整えていただくことになります。また、その教育研究機関が研究インターンシップの実施にふさわしいかどうかは、事前に代議員会で実施計画書（主指導教員作成が作成するもの。様式4）及び受入教員の経歴等の審査（確認）を受けることになっていますのでご注意ください。海外の機関の場合は受入先の承諾を得て6ヵ月前まで、国内の機関は3ヶ月前までに連大事務室へ連絡してください。

提出書類

- ・研究インターンシップ実施計画書（様式4）
- ・受入教員の略歴書
- ・学生の履歴書

2) 成績評価について

研究インターンシップ終了後、学生レポート及び受入教員の実施報告書を基に、主指導教員の責任で成績評価を行っていただきます。

提出書類

- ・成績報告書
- ・学生レポート
- ・受入教員の報告書

3) 交通費等の支援について

連携協定を結んでいる研究機関へ派遣する場合は、交通費及び宿泊費を学生本人へ支給します。

協定機関以外の場合は、交通費のみ支給しております。交通費は、11月末で締切、1月に主指導教員の研究費として配分しますので、学生の旅費は主指導教員が運営費で立て替えてお支払いください。（宿泊費は支給されません）

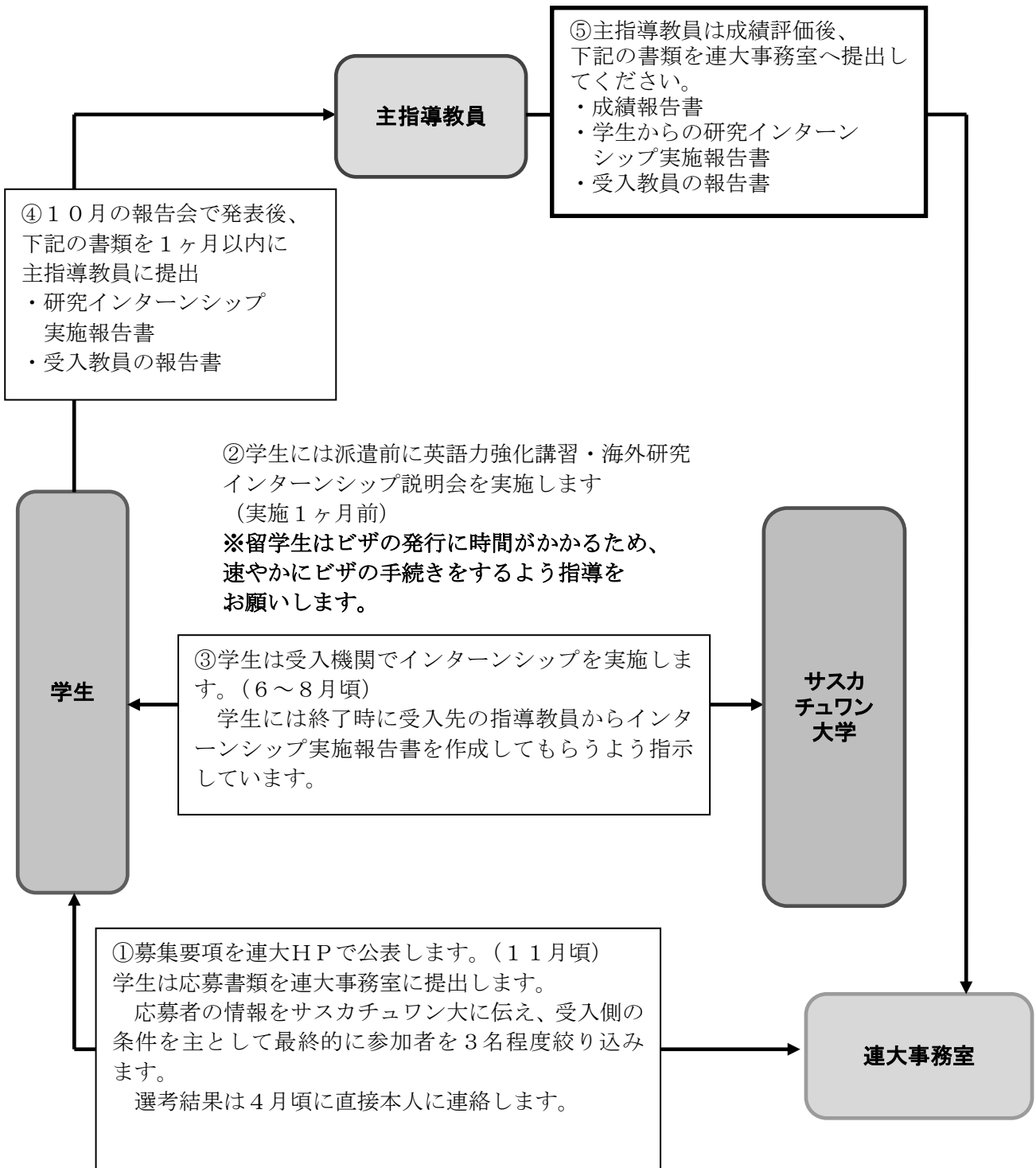
海外の場合は、交通費の上限を15万円とします。

研究インターンシップ終了後に「旅行命令伺」等の交通費の明細写しを連大事務室に提出してください。

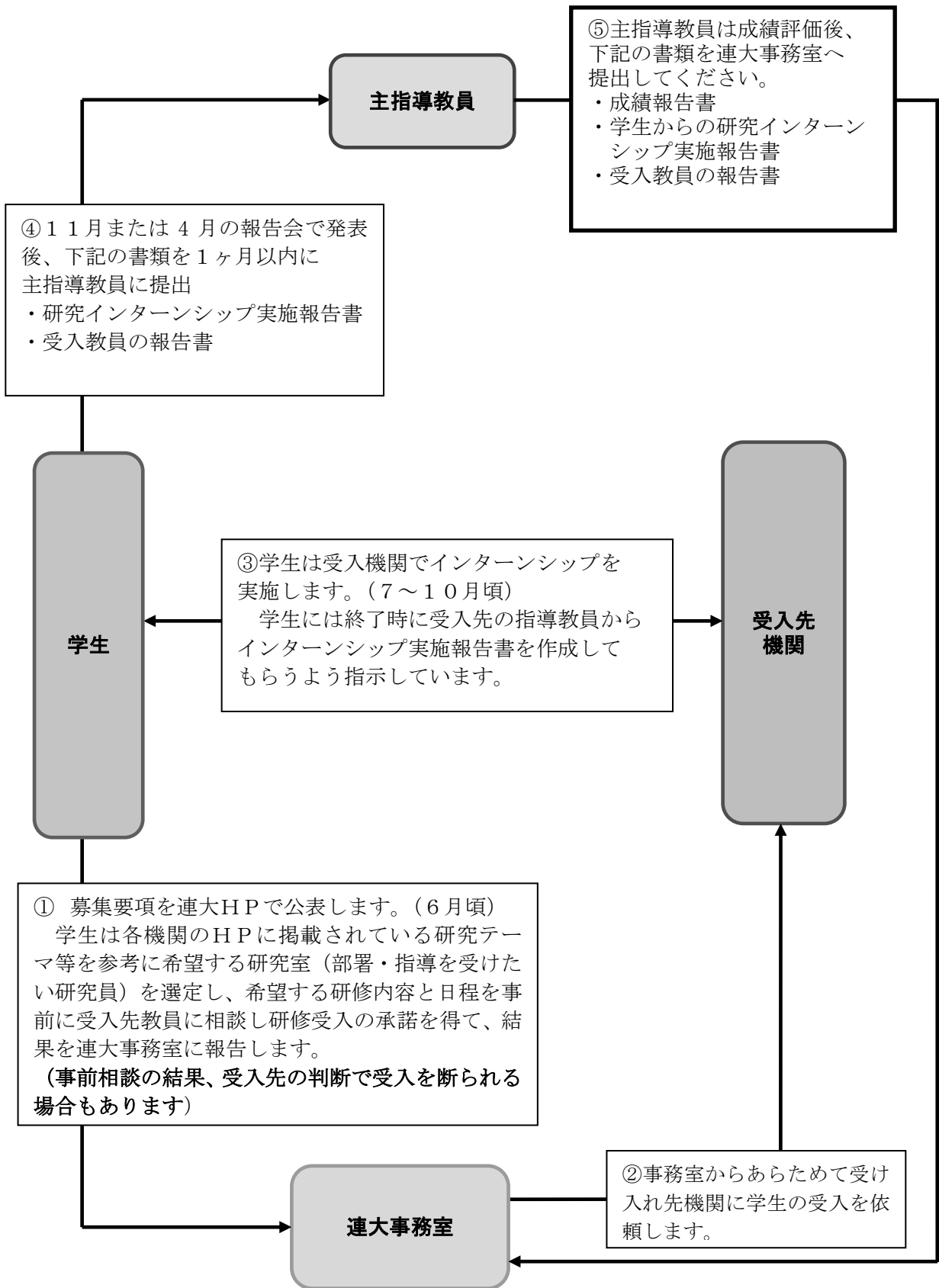
※交通費については、配属大学住所から受入機関までと、居住地から受入機関までとを比べて、近距離である方を基に計算した額を支給します。

サスカチュワン大学での研究インターンシップの流れ

※旅費の支給や受入側の条件もあるため、連大で事前に参加者を調整します。



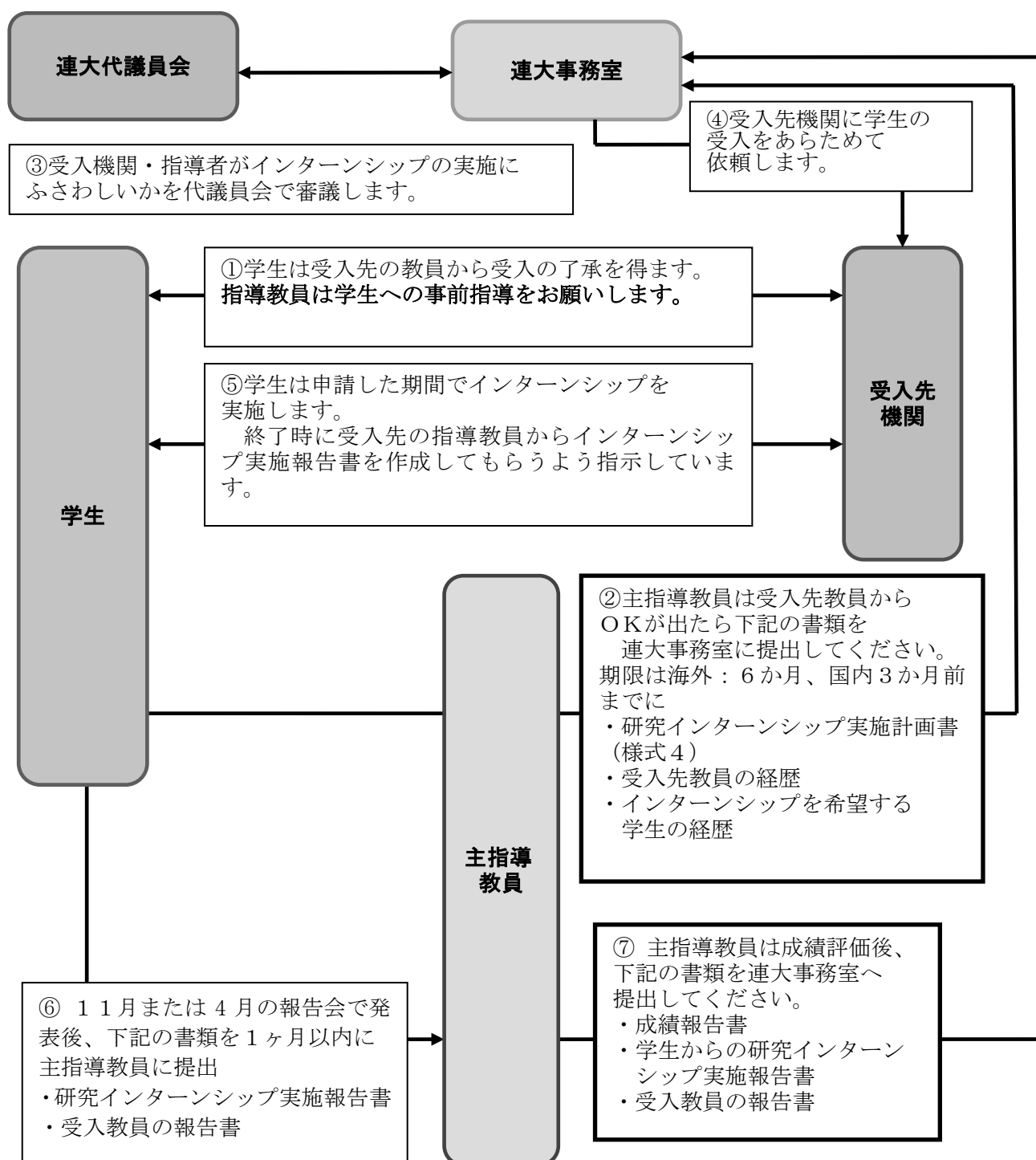
国内の連携機関での研究インターンシップの流れ



連携機関以外での研究インターンシップの流れ

※申請は随時受け付けますが、受入機関・指導者がインターンシップの実施にふさわしいかを代議員会で審議する必要がありますので、国外の機関はインターンシップの実施を希望する6ヶ月前まで、国内の機関はインターンシップの実施を希望する3ヶ月前まで、に受入先教員から受入の了承を得た上で、連大事務室へ連絡してください。その際、研究インターンシップ実施計画書・受入先教員の経歴・インターンシップを希望する学生の経歴を提出してください。連大事務室より受入先機関へ受入を依頼し、受入先より了承の連絡が来た上で、代議員会に報告し了承を得たらインターンシップの実施が可能となります。

連携機関以外での研究インターンシップへの補助については交通費のみが支給されます。



研究インターンシップ実施計画書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

主指導教員 連大 太郎
 (配属大学： 〇〇大学)

下記の機関で研究インターンシップを履修させてよろしいか確認願います。

記

履修学生氏名 〇〇 〇〇 (男) 女)

受入機関名 〇〇大学〇〇研究センター

受入機関住所 〇〇県〇〇市〇〇町〇の〇

受入指導者氏名・役職

〇〇 〇〇・准教授

受入機関事務担当者所属・氏名： 〇〇研究センター・ 〇〇 〇〇

電話： 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 FAX： 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

Eメールアドレス： 〇〇〇@〇〇.〇〇.〇〇.jp

研究インターンシップ実施計画（概要）

- ①研修テーマ：農村景観の計量的評価に関する調査プロセスの把握
 ②実施予定時期：平成〇〇年9月上旬から11月上旬までの期間で延べ3週間。
 ③研修の主な目的：
 履修学生の研究（集落における農業生産活動の分析）を、生産活動だけでなく農村景観の視点からも捉えられるように視野を広げるきっかけを与える。
 ④受け入れ先の状況：
 同センターの受入研究員が所属する研究室では、農村景観に関する多くの研究実績をあげており、調査プロセスを体験させる研修の場として適している。
 ⑤研修内容：
 研究員に同行し、同センターの調査フィールドでの調査活動、とりわけ写真景観情報の取得、住民による景観評価の手法、調査結果の解釈の仕方等を体験させ、研究活動全体のイメージを把握させる。

国際学会コミュニケーション

研究科共通科目	1 単位
講義概要 (目標) 国際学会などに参加して、英語による研究発表・討論を行う一連の準備プロセスを修得するとともに、発表方法などの改善について指導を行います。 (内容) 事前、事後のプロセスを含めて、国際学会などに参加し英語での研究発表・討論を行うことを授業として位置づけます。 1) 事前指導 : 研究発表の内容や具体的な発表について計画を立てて、主旨指導教員に提出し、主旨指導教員から事前指導を受けます。 2) Abstract の作成 : 国際学会の開催要領を把握した上で参加申込を行い、Abstract を作成して送付します。 3) 発表資料の作成 : Proceeding などの原稿、口頭発表用の資料またはポスターの成果物を作成します。 4) プレゼンテーションのスキルアップ : 繰り返しの練習等で英語による発表のスキルアップを図ります。 5) レポートの作成 : 自己評価を含めたレポートを作成し、主旨指導教員に提出します。 6) 事後指導 : 質疑応答の内容、出席者からのコメント、発表の問題点、将来への展開などについて主旨指導教員と総括を行い、事後指導を受けます。	
評価の方法 上記の6項目について総合的に評価します。	
講義履修上の注意事項 ・ここでいう国際学会とは Conference、Symposium、International meeting、International workshop などとします。 ・参加する国際学会は開催地(国内外)を問いませんが、公式言語として英語が採用されており、英語による発表であることを条件とします。 ・発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。 ・レポートは、学会名、開催場所、開催期間、参加者の概要(人数・国名)、参考になった発表(演題名、発表者)の他、自ら学会で発表した内容(質疑応答の内容、出席者からのコメント)、将来への展開、自己評価・感想について記載し、主旨指導教員に提出してください(様式2、2枚程度)。 ・学会へは「岩手大学大学院連合農学研究科の学生」として参加する必要があります。社会人の方は注意してください。 ・学位申請後の単位認定は行いません。 *旅費の支給額・範囲については、34ページをご覧ください。	

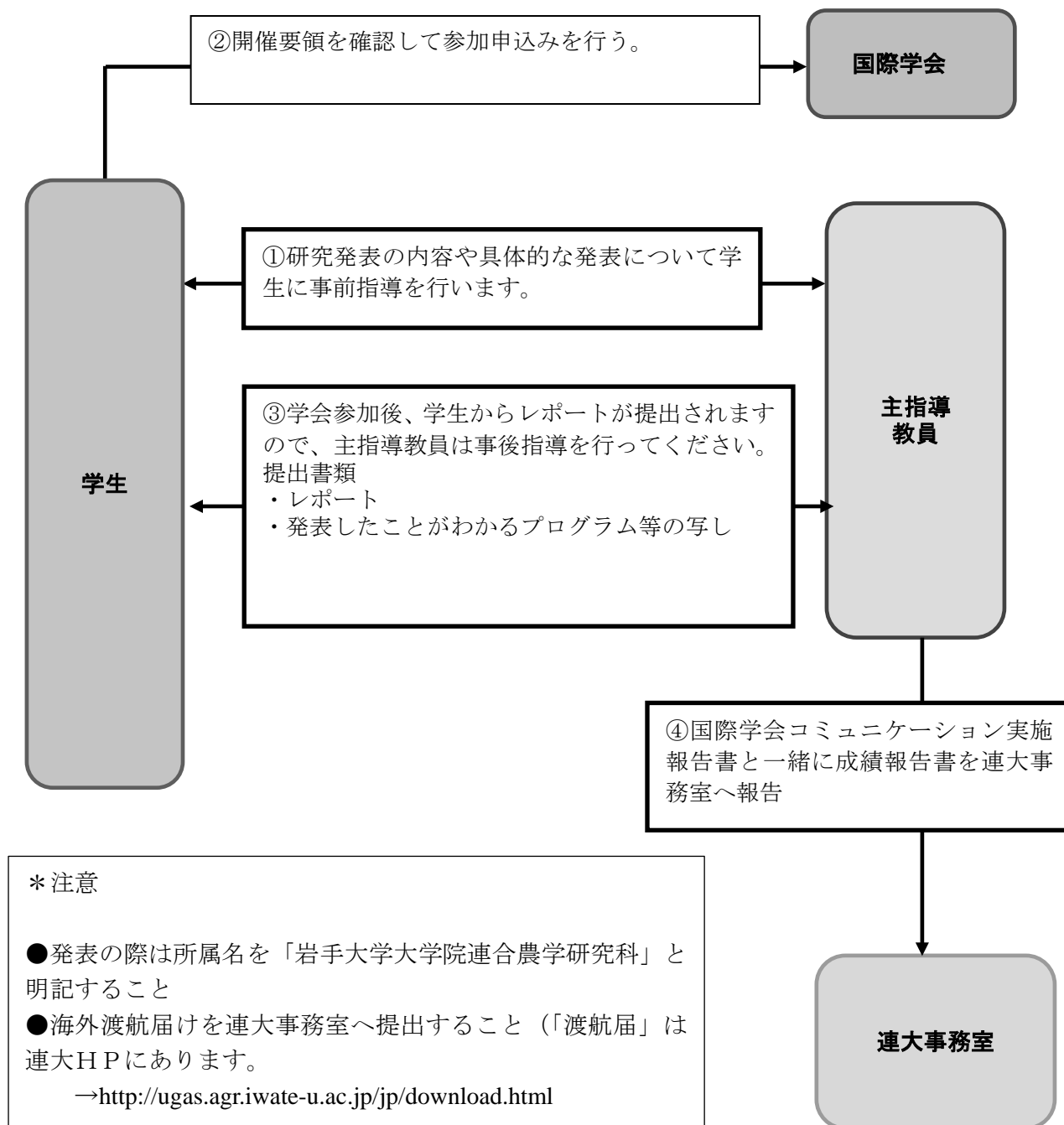
指導教員への補足説明

1) 交通費支援について

学生支援として、交通費(上限15万円)を支給しております。交通費は、11月末で締切、1月に主旨指導教員の研究費として配分しますので、学生の旅費は主旨指導教員が運営費で立て替えてお支払いください。(宿泊費は支給されません)

国際学会参加後に「旅行命令伺」等の交通費の明細写しを連大事務室に提出してください。国際学会コミュニケーションの単位として認定されるには「岩手大学大学院連合農学科の学生」としての学会参加が必要です。社会人学生への指導をお願いします。

国際学会コミュニケーションの流れ



指導教員への補足説明

事後の手続きについて

受講生から、主指導教員にレポートが提出されますので、主指導教員は、国際学会コミュニケーション実施報告書を作成し、下記の書類と一緒に連大事務室へ提出してください。

提出書類

- ・成績報告書
- ・国際学会コミュニケーション実施報告書（様式6）
- ・学生レポート・学生が国際学会等で報告したことを示す証拠資料（大会プログラムのコピー等）

※成績報告書及び様式6は、連大HPからダウンロードできます。

国際学会コミュニケーション実施報告書

平成 年 月 日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

主指導教員
(配属大学： 大学)

下記のとおり、国際学会コミュニケーションを実施したので報告します。

記

履修学生氏名： (配属大学： 大学)

発表年月日： 年 月 日

発表した大会・シンポジウム等：

開催地（国名・都市名）：

発表タイトル：

指導教員所見

※学生から提出された報告書に基づいて指導教員の所見を簡単に記入してください。

* 学生が国際学会等で報告したことを示す書類（大会プログラムのコピー等）を添付してください。

社会人特別演習

※社会人カリキュラムのみ

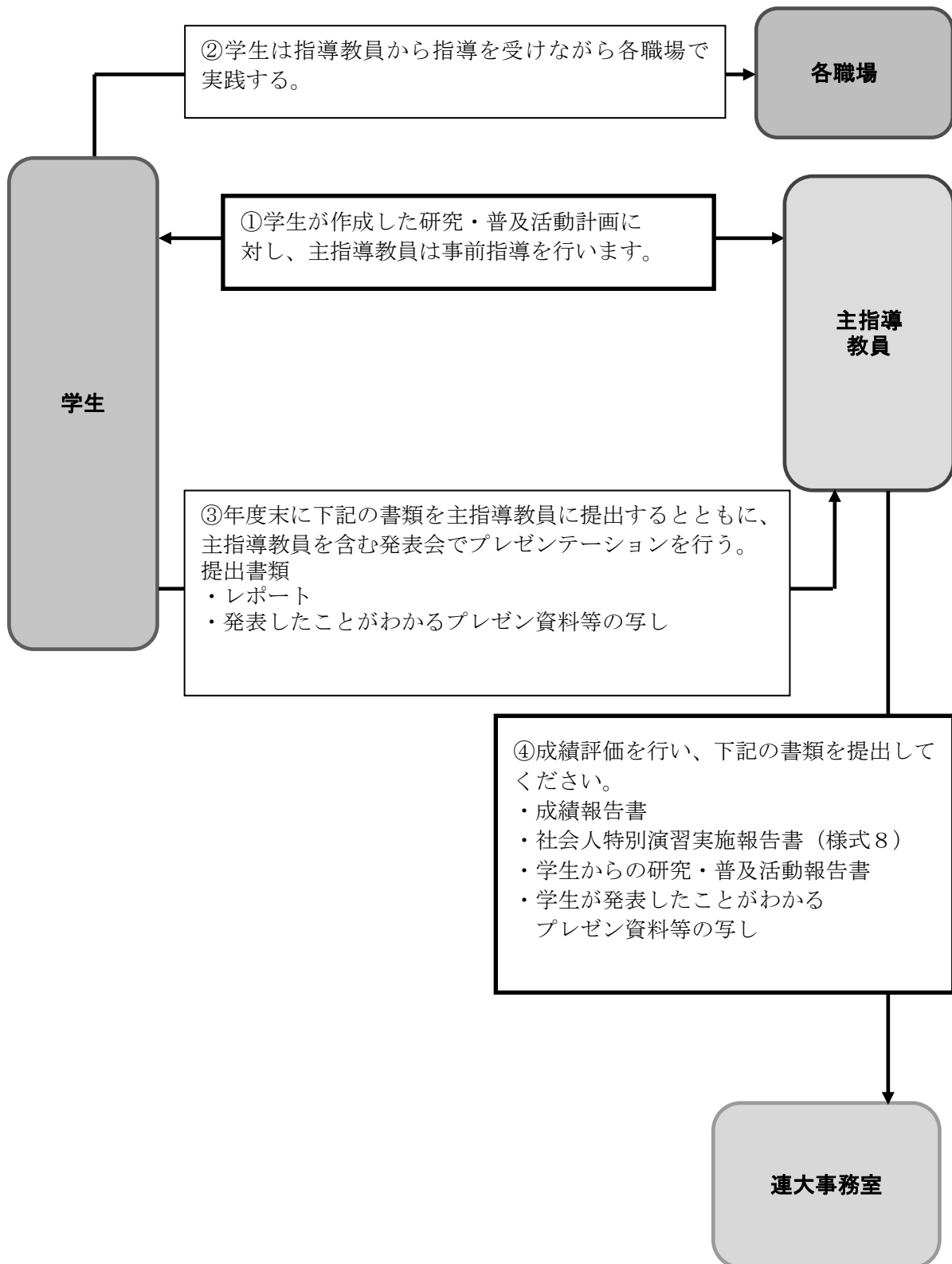
研究科共通科目	1 単位
講義概要 (目標) 社会人研究者に求められる専門分野以外での研究活動や普及活動について、社会人学生のそれぞれの職場での実践結果を報告(プレゼンテーション)してもらい、柔軟な研究応用力と普及能力を高める助言・指導を行います。 (内容) 社会人の職場での研究活動・普及活動に関して多面的な指導を行います。 1) 事前指導: 入学年度当初に、各職場での学位論文研究以外での研究・普及活動(例: 研究機関が実施する公開講座や市民向け研究成果報告会等での発表)について、研究・普及活動計画を立て、主指導教員に事前指導を受ける。 2) 実践: 提出した研究・普及活動計画に基づき、適宜、主指導教員や副指導教員に相談し、指導を受けながら各職場で実践する。 3) プレゼンテーション: 年度末に、実践した研究・普及活動について、実践の内容、成果、課題についてまとめた研究・普及活動報告書及び証拠書類をまとめて主指導教員に提出するとともに、主指導教員を含む発表会でプレゼンテーションを行う。 4) 事後指導: プレゼンテーションおよび報告書の内容をもとに、報告会参加者から助言・指導を受ける。	
評価の方法 研究・普及活動報告書(様式7)を、用紙2枚程度にまとめて作成し、実践の概要、実践の成果と課題について記述し、証拠書類と併せて主指導教員が指定した期日までに提出してください。 研究・普及活動報告書の内容およびプレゼンテーションの内容によって、総合的に評価します。	
講義履修上の注意事項 <ul style="list-style-type: none">・ 自らの職場で、この単位の取得に可能な実践が可能かを判断し、かつ、内容について適当かどうか主指導教員と相談してから履修申告するようにしてください。・ 履修申告時には、具体的な研究・普及活動の日程や内容が明らかでない場合でも、「〇月頃、公開講座で報告予定」等として計画を立て提出することができます。・ 職場での研究・普及活動の実践では、連大教員は原則として立ち会えませんが、実施計画が明らかになった時点で、適宜、主指導教員と相談し助言を受けてください。・ 各実践終了後は、できるだけ早い時期に主指導教員に報告してください。・ プレゼンテーションの日時、場所、報告時間などは主指導教員の指示に従ってください。	

指導教員への補足説明

社会人特別演習は、とくに研究所に勤務する研究員で本務として社会貢献活動が位置づけられ、市民対象の公開講座などへ参画が要請されている社会人学生を想定し、用意された科目です。社会人研究者の本務のスキルアップに役立てながら単位を取得できるので、当該学生の主指導教員の方は講義の趣旨を知らせ、履修を勧めるようにしてください。

終了後、学生から主指導教員へ研究・普及活動報告書(様式7)が提出されます。主指導教員は、社会人特別演習実施報告書(様式8)を作成し、下記の書類と一緒に連大事務室まで提出してください。

社会人特別演習の流れ



社会人特別演習実施報告書

平成 年 月 日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

主指導教員 連大 太郎
(配属大学： 大学)

下記のとおり、社会人特別演習を実施したので報告します。

記

学生氏名/ Name	学籍番号/ Student No.	配属大学/ University
1. 指導内容		
2. 指導教員の所見		

専攻共通科目	1 単位
<p>講義概要</p> <p>(目標) 指導教員の講義の一部や研究室ゼミナールの司会を担当することにより、教育・指導のスキルについて体験的に学び、教育者としての素養の向上をめざします。</p> <p>(内容) 主指導教員の監督の下で主指導教員が担当する講義の一部を担当するか、修士学生、学部学生の研究室ゼミナールでの司会等を担当し、講義やゼミナール終了後は指導教員と講義内容改善のための方策を話し合う内容の講義科目です。</p> <p>1) 1回の講義で、事前指導→当日の講義→事後指導までで4時間程度 2) 1回の研究室ゼミナールの司会で、当日の講義→事後指導までで3時間程度 * 1) と 2) の組み合わせにより15時間以上を目安に実施します。</p>	
<p>評価の方法</p> <p>教育指導受講者の講義準備状況、講義内容、講義終了後の学生への対応、レポート等により総合的に評価します。</p>	
<p>講義履修上の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目の履修にあたっては、必ず主指導教員と事前に相談してください。主指導教員の判断で履修できないこともあります。また、具体的な授業内容も主指導教員によって異なりますので、よく相談してから履修申告してください。 指導が終了次第、主指導教員にレポート（様式9）を提出してください。 	

指導教員への補足説明

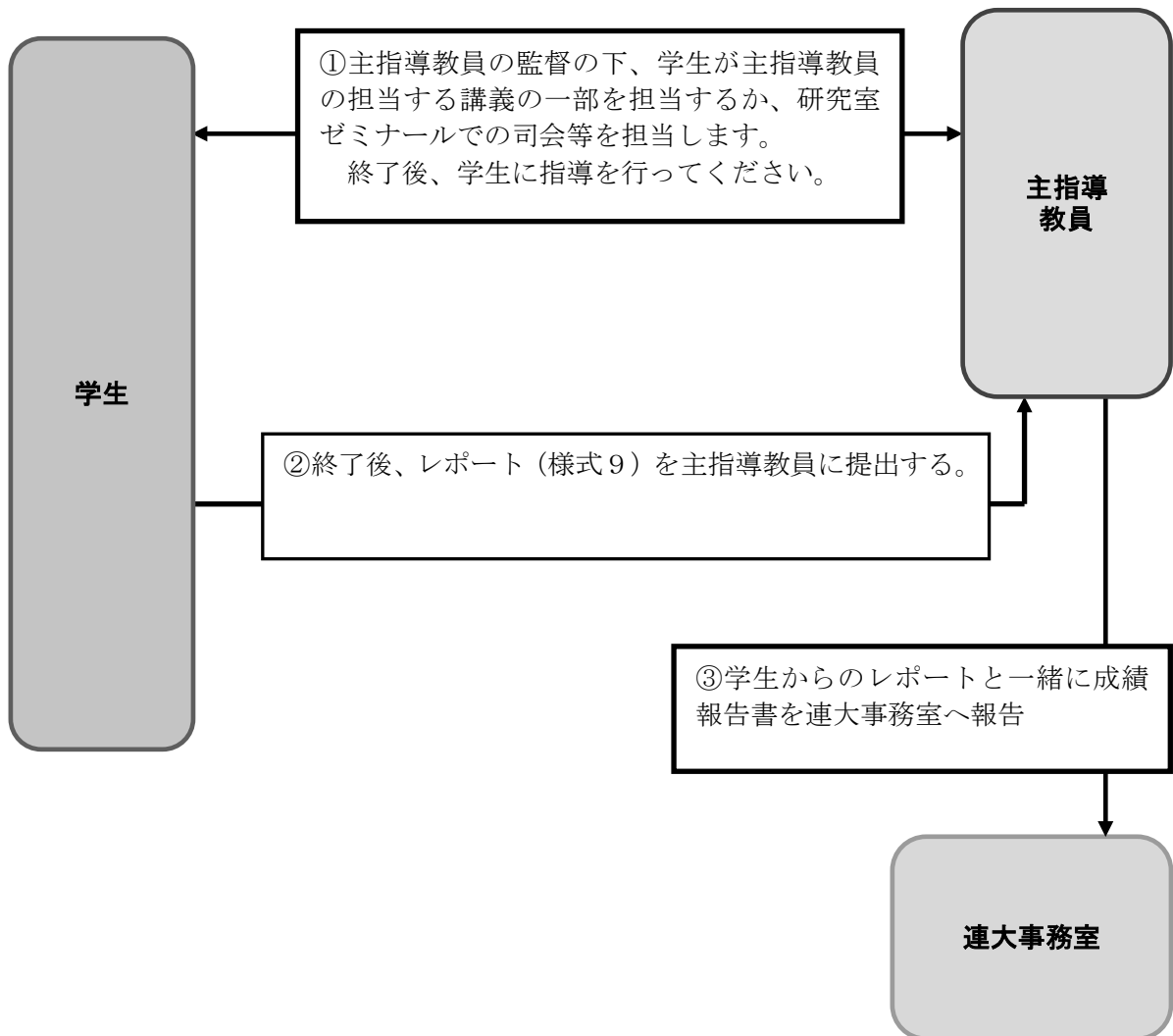
この科目は、学生が希望すれば誰でも履修し単位を取得できるという性格のものではなく、実質的には主指導教員が学生指導の過程で、学生の能力を見極めながら履修させ、単位を認めるかどうかを判断することになります。学生の履修に際しては、必ず適切な指導とチェックをお願いします。

学生が教員の代わりに行う講義は、あくまで主指導教員の指導・監督の下で行われるもので、単に主指導教員の講義を代行させるものではありません。主指導教員は、学生の指導能力を見極めながら、講義をさせてよいかを慎重に判断し、無理な実施は避けてください。主指導教員の指導のもとに計画を立てるものとしませんが、概ね以下のような時間配分で実施してください。

1. 1回の講義で、事前指導→当日の講義→事後指導、あわせて4時間
 2. 1回の研究室ゼミナールの司会で、当日の講義→事後指導、あわせて3時間
- ※1と2の組み合わせにより、15時間以上。

終了後、学生から主指導教員へレポート（様式9）が提出されます。主指導教員は提出された実施報告書の内容をチェックし、これに履修者の講義準備状況、講義内容、講義終了後の学生への対応等により総合的に評価し、成績報告書と学生からの実施報告書をあわせて連大事務室まで提出してください。

教育研究指導の流れ



研究科長裁量経費からの学生交通費等の支援について

学生の国際通用性や若手研究者の育成を積極的に推進する観点から、幾つかの講義科目について、平成27年度は下記の要領で学生の交通費等の支援を行います。

記

◇研究インターンシップ

事 項	補助項目	備 考
東北農業研究センター（連携大学院）	交通費、宿泊費	連大から本人へ支給
岩手生物工学研究センター（連携大学院）	交通費、宿泊費	連大から本人へ支給
青森県産業技術センター（連携大学院）	交通費、宿泊費	連大から本人へ支給
カナダ・サスカチュワン大学（連携協定）	交通費、宿泊費	連大から本人へ支給
上記以外の国内研究インターンシップ	交通費（上限10万円）	主指導教員の研究費へ配分
上記以外の海外研究インターンシップ	交通費（上限15万円）	主指導教員の研究費へ配分

◇国際学会コミュニケーション

事 項	補助項目	備 考
海外での国際学会	交通費（上限15万円）	主指導教員の研究費へ支給

※日本国内での国際学会への交通費は連大からの補助なし。

※学位申請後の旅費補助については連大からの補助なし。

◇デュアル・ディグリープログラム

事 項	補助項目	備 考
サスカチュワン大学への渡航費 （在籍期間中往復1回分）	交通費	連大から本人へ支給 （日本から参加する場合）

注1) 国際学会コミュニケーションで交通費支援の対象となる学生は、筆頭者で実際に口頭発表またはポスター発表を英語で行った者に限り（単なる連名者、学会参加者は含まれません）。また、所属名は必ず「岩手大学大学院連合農学研究科」としてください。

注2) 連携機関以外への研究インターンシップ及び国際学会コミュニケーションの学生交通費は、11月末で締めきり、1月に研究費を運営費交付金として配分します。旅費は一旦主指導教員の研究費（運営費）から支給願います。各構成大学において旅行命令伺（旅行計画）及び計算書を作成してください。研究インターンシップ・国際学会コミュニケーション実施後に、各構成大学において作成された旅行命令伺（旅行計画）及び計算書の写しを、連大事務室までご送付願います。配分する交通費については、各構成大学において作成された旅行命令伺（旅行計画）及び計算書に記載された交通費を基に計算します。それ以外の場合は、支援の対象となりませんのでご注意ください。上限10万円（国内研究インターンシップ）もしくは15万円（海外研究インターンシップ）の補助については、交通費にのみ適用されます。宿泊費および日当に関しては、各構成大学の旅費規則に従って下さい。

12月以降に実施した場合の学生交通費は、翌年度研究費（運営費）として配分します。

注3) 補助につきましては在籍期間中どちらも1回分まで補助いたします。

注4) 発表者の所属は必ず「岩手大学大学院連合農学研究科」とするようお願いいたします。

注5) デュアル・ディグリープログラムの学生への研究インターンシップ及び国際学会コミュニケーションの交通費補助はありません。

岩手連大の成績評価ガイドライン

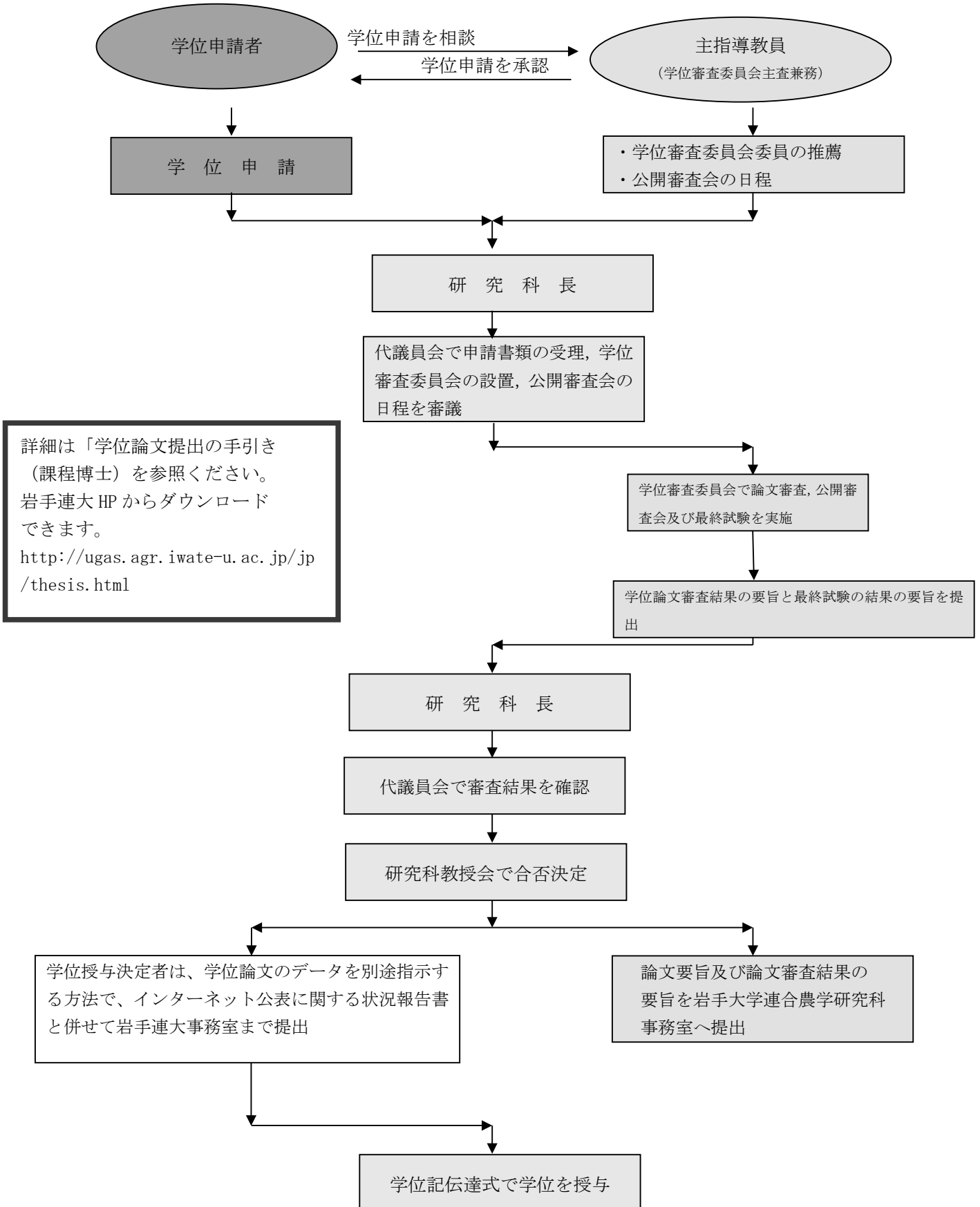
岩手連大では、学生の成績評価について、以下のようなガイドラインを定めています。成績判定は、「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階で行われ、合格は「秀」「優」「良」「可」の判定で単位が認定されます。その他、「不可」「保留」「放棄」と判定された場合、単位認定はされません。

1. 講義については、一部（教育研究指導、特別演習、特別研究）を除き、ペーパー試験あるいはレポート課題のいずれかで評価が行われます。
2. ペーパー試験の場合、その評価点数と5段階評価の関係は以下の通りです。

秀：90点以上 優：89～80点 良：79～70点 可：69～60点
不可：59点以下

3. レポート課題の場合、5段階評価は概ね以下の基準によります。
 - 秀：教員が求めるレポート課題に十分に答える内容であり、かつ、教員がレポートに求める内容以上に、与えた課題から派生する受講者のすぐれた論理展開や新たな知見の記述が見出せること。
 - 優：教員が求めるレポート課題に十分に答える内容であること。
 - 良：教員が求めるレポート課題にほぼ答える内容であるか、もしくは十分に答える内容ではないがレポートの作成に一定程度の努力が認められること。
 - 可：教員が求めるレポート課題に十分に答える内容にはなっていないが、的確な回答がレポートに含まれていること。
 - 不可：教員が求めるレポートの課題に的確に答える内容にまったくなっていないこと。
4. ペーパー試験、レポート課題以外の評価（受講の態度、講義への参加度など）は教員の判断で加点要素として採用されます。ただし、秀については上記2および3の基準を満たす場合のみ与えられます。
5. 教育研究指導、特別演習、特別研究については、主指導教員、副指導教員が、学生の研究力量、教育力量の強化を図る実地指導であるため、評価は各教員の判断にゆだねられます。ただし、「秀」については、極めて積極的に優れた力量を発揮した学生にのみ与えられます。

学位申請・審査フローチャート（課程博士）



詳細は「学位論文提出の手引き
（課程博士）を参照ください。
岩手連大 HP からダウンロード
できます。
<http://ugas.agr.iwate-u.ac.jp/jp/thesis.html>

学位申請・審査フローチャート（論文博士）

